

経営者への活きた言葉

1日の業務の最後に30分深考 澤田 道隆(花王社長)

1. 社長就任後も、できるだけ異業種のトップの方とお会いして意見交換するようにしています。「こういうやり方もあるのか」と感心させられることが多いです。そうしたアイデアは経営にどんどん取り込んでいます。一方、仕事は日々、区切りをつけます。資料や書類などは議論が終わったらすべて廃棄します。そして次の仕事、テーマに集中するのです。毎日、その日の仕事を完結させることで、必ず結論を出すくせがつきます。
2. 仕事では次々に新たなテーマが出てきますから、レスポンスを速くしないとダメです。結論を先送りにすると書類や資料がたまって判断材料が増え、いい判断ができなくなります。破棄して次の仕事に臨む。デスクには何も残しません。そして1日の業務の最後にはじっくり考える時間を30分間、必ず持ちます。花王グループの将来やグローバル展開といった大きなテーマについて、社長室で手を動かさず熟考します。
3. 自宅では週に10冊くらいのペースで読みます。本には赤ペンで気になったフレーズに下線を引いたり自分の考えを書き込んだりします。読後はこれらの書き込みをパソコンに入力して廃棄します。入力したメモは3年分あり、時々検索して読み直します。「あの時はこう考えていたのか」と改めて発見することが多く、思考の整理に役立ちます。

(参考:「日経ビジネス」2013年1月14日号)

新規成長分野

「コト消費」に注目が集まる

1. 「モノ消費」とは、消費財などの「商品の消費」であり、それに対して「コト消費」とは、心に残るような体験を求める消費行動のことで、「時間消費」などとも呼ばれています。今年、旅行など心の豊かさを満たす「コト消費」関連イベントが相次ぐ。まず、日本を代表する2つの神社、伊勢神宮(三重県伊勢市)と出雲大社(島根県出雲市)では、社殿を立て替えてご神体を移す「遷宮せんぐう」が行われる。
2. 次に6月17日~27日、カンボジアのプノンペンで開催される第37回世界遺産委員会で、「武家の古都・鎌倉」(神奈川県横浜市・鎌倉市・逗子市)と「富士山(山梨県・静岡県)の世界文化遺産への登録の可否が決定される。両候補地が同時に世界文化遺産に登録となれば観光産業などに絶大な波及効果をもたらすであろう。

(参考:「野村週報」2013年2月11日号)